

学 校 評 価 書

令和6年度 輪 島 市 立 門 前 中 学 校 NO.1

＜重点目標①（知）＞ 確かな学力の育成											
評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目		アンケート結果		自己評価	最終評価	分析	今後の取組
自分の考えを分かりやすく伝える・表現する力の育成と学力の向上	(1)	アンケートの結果と、各種学力調査の結果及び英検、漢検等の達成状況から評価する。	生徒	①授業では、集中して先生や友達の話聞いている。	94.1	85.4	a	B	・生徒の授業に対する取組は良好であり、回答も9割以上が肯定的である。しかし、肯定的に回答している保護者の割合は1学期よりも低下しており、生徒との回答に開きがある。学校の取組や、授業の様子が十分に保護者に伝わっていないと考えられる。	・保護者に学習活動の様子を知ってもらうために、家庭学習のノートや授業研究の取組の様子を学校だよりに掲載する。また、授業参観や学校公開への保護者の参観を呼びかけ、生徒の授業の様子を伝える。	
				②授業では、話し合い活動に積極的に取り組んでいる。	94.3						
			保護者	①お子さんは、「授業が分かる」と言っている。	64.3						
				②お子さんは、学習に対して意欲的であると感じる。	45.2						
			教員	①校内研究の研究主題を意識して学習指導に取り組んでいる。	100.0						
				②ゴールイメージを持ち、それに到達できるような資料の提示をしている。	100.0						
家庭学習の質的向上と学習習慣の定着	(1)	アンケートの結果と、家庭学習時間調査の結果から評価する。	生徒	③家庭でも時間を決めて学習に取り組んでいる。	82.4	73.0	c	B	・生徒の肯定的回答は8割を越えているが、保護者の回答は6割未満で生徒との回答に開きがある。保護者の回答③は1学期より上昇しており④は下降している。「定期テスト学習計画表に保護者サインやコメントをもらう」取組により生徒の家庭学習の様子を見直した保護者もいると考えられる。	・3学期も「定期テスト学習計画表」に保護者欄を設け、保護者にサインをしてもらうことで、生徒の家庭学習について共有を図る。さらに、学校だよりや学年通信で保護者からの声かけを呼びかける。	
			保護者	③お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。	57.1						
				④お子さんは、定期テストに向けて計画的に家庭学習に取り組んでいる。	52.4						
			教員	④授業とリンクした予習・復習の課題を出している。	100.0						
I C Tを生かした学びの改善	(1)	ICT機器の活用による授業改善とGIGA構想に基づく学びの質の向上を評価する。	生徒	④ I C T機器を有効に学習に生かしている。	91.4	95.7	a	B	・ICT機器を適切に活用して、学習と授業改善に取り組んでいる。	・今後もICTを有効活用した授業改善に取り組み、学力向上を目指す。	
			教員	⑤ I C T機器を活用した授業改善に取り組んでいる。	100.0						
新聞や読書を通しての活字への慣れ親しみ	(1)	200字作文、アンケート結果、読書調査から、文字や文章に慣れ親しんでいるか評価する。	生徒	⑤学校や家庭で新聞や本を通して活字に親しんでいる。	65.7	64.0	d		・「家庭で新聞や本を通して活字に親しんでいる」と回答した保護者の割合は1学期よりもやや上昇したが、3割未満にとどまる。メディア使用時間のアンケートの数値が上昇していることから、家庭でメディア使用についての約束事を決めるなど、働きかけが必要だと考えられる。	・冬休みに「家庭読書」の取組をし、家庭での読書習慣を身に付けるようにする。また、メディア使用時間が過度にならないよう注意喚起する。	
			保護者	⑤家庭で新聞や本を通して活字に親しんでいる。	26.2						
			教員	⑥新聞や読書で活字に親しむように指導している。	100.0						

＜重点目標②（徳）＞ 豊かな心の育成												
評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果		自己評価	最終評価	分析	分析と今後の取組		
自己肯定感・自己有用感の涵養	(2)	アンケートの結果と、学校行事の様子から評価する。	生徒	⑥自分には、よい面がある。	79.6	86.6	a	A	・生徒の自己肯定感は概ね良好である。 ・入試への不安や悩みを抱えている生徒がいる。	・これまでの取り組みを継続していくとともに、面談を定期的に取り入れ、生徒の不安や悩みを解消していく。		
				⑦これからの自分のことについて考えている。	80.0							
			保護者	⑥学校は生徒の良い面を伸ばしてくれている。	85.4							
				⑦お子さんのこれからのことについて話をしたことがある。	88.1							
			教員	⑥生徒のよい面を積極的にほめている。	100.0							
いじめ・不登校のない学校づくり	(2)	アンケートの結果と、実際のいじめ、不登校の件数や経緯から評価する。	生徒	⑧自分は、友だちを大切にしている。	97.1	96.7	a		・生徒同士の人間関係は良好である。 ・「いじめや不登校のない学校・学級をつくろうとしている」と評価している保護者の割合92.1%と高い数字を表している。	・授業を通した子どもの居場所づくり、またその他の教育活動を通して、より良い人間関係を築いていきたい。 ・保護者と密に連絡を取り合い、生徒の様子を把握する。		
			保護者	⑧学校は、いじめや不登校のない学校・学級をつくろうとしている。	92.9							
			教員	⑧積極的・継続的にいじめ、不登校のない学校・学級づくりを心がけている。	100.0							
基本的生活習慣の定着	(2)	アンケートの結果と、学校公開等での意見から評価する。	生徒	⑨自分は、挨拶がしっかりできている。	97.1	89.6	a				・「挨拶がしっかりできている」と評価している保護者の割合は2.7%上昇している。 ・「11時までには寝ている」と回答した生徒・保護者の割合はともに前回から下がっている。	・家庭での生活習慣について集会や授業、保健だより等で伝える。また、生徒会活動とも関連させ、生徒同士で考え時間を設定する。 ・各種便り、面談等で、保護者に適切な生活習慣について周知する。
				⑩語先後礼・無言清掃に取り組んでいる。	94.3							
					⑪11時までには寝ている。			77.1				
			保護者	⑨生徒たちは、挨拶がしっかりできている。	95.2							
				⑩お子さんは11時までには寝ている。	63.4							
			教員	⑨学校でのルールを生徒に守らせるよう指導している。	100.0							
⑩語先後礼・無言清掃の指導をしている。	100.0											
生徒会活動・係活動の活性化	(2)	アンケートの結果と、生徒会の取組を客観的に評価したり、係活動の足跡から評価したりする。	生徒	⑫生徒会活動や係活動に積極的に取り組んでいる。	97.1	90.4	a	・色々な制限がある中で、学校行事の企画・運営や名古屋チュー祭など校外の生徒会行事に参加できたことが非常に良かった。	・左記の活動を今後の校内での活動・取組につなげていく。 ・校外の生徒会活動、係活動でどのような取り組みを行っているか、学校だよりやHP等で積極的に発信していく。			
			保護者	⑪お子さんは、生徒会活動や係活動に積極的に取り組んでいる。	78.6							
				⑫学校は、子どもたちが地域で活躍できる機会を充実させている。	85.7							
			教員	⑪委員会活動や係活動は、普段の生活にも生きるように指導することを心がけている。	100.0							

＜重点目標③（体）＞ 健やかな体の育成										
評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果		自己評価	最終評価	分析	分析と今後の取組
体育や諸活動の充実による体力・運動能力の向上	(3)	アンケートの結果と、対外的な活動の様子や、学校公開でのアンケート等から総合的に評価する。	生徒	⑬体育や運動を通して、体力の向上を図っている。	94.3	93.3	a	B	・「体力の向上を図る」取組は、前回に引き続き肯定的に評価されている。	・授業や部活動でのトレーニングメニューを取り入れ、運動量を確保しながら体力の向上を図る。 ・生徒会委員会の活動の中で、運動・体力の向上を目的とした取り組みを計画・実施する。
			保護者	⑬学校は、体育・運動を充実させ、体力の向上・耐える力の向上を図っている。	85.7					
			教員	⑬体力・運動能力の向上や耐える力の向上を図っている。	100.0					
安心・安全な学校づくりと防災教育の充実	(3)	アンケートの結果と避難訓練、危機管理マニュアルを活用した対応等で評価する。	教員	⑭学校内外の安全指導の徹底を図っている。	100.0	100.0	a		・安全指導の徹底が図られている。	・今後も現状を把握し、安全指導を継続していく。
学校と家庭の連携による共同体制づくり	(3)	アンケートの結果と、生活アンケートの結果から評価する。	生徒	⑭ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくり、それを守っている。	82.9	76.4	b		・「ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくり、守っている」と回答した生徒の割合は約7%上昇しているが、保護者の回答と大きな差が生じている。	・各家庭の端末の使用についてのルールを確認し、生徒が適切に端末を使用する環境を整える。 ・子どもの様子を把握し、ルールや使い方等を話し合う機会を作ってもらおう。
			保護者	⑭お子さんは、ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくり、それを守っている。	46.3					
			教員	⑭望ましい生活習慣を身に付けさせるための取組をしている。	100.0					

＜重点目標④＞ 信頼される学校づくり											
評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目		アンケート結果		自己評価	最終評価	分析	分析と今後の取組
信頼される学校づくり	(4)	アンケートの結果と、対外的な活動の様子や学校公開でのアンケート等から総合的に評価する。	生徒	⑮学校に行くのは楽しい。	88.6	81.5	b	B	・「信頼できる先生がいる」と回答した生徒の割合は約13%上昇している。一方、保護者の割合は約2%減っている。どちらの数値も信頼される学校・教員の姿を目指す上で、課題が残る結果である。	・生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境を整える必要がある。そのために、どの生徒にも常に声掛けをしたりするなど、生徒が見守られているという意識、叱咤激励することでメリハリある学校生活を送れるように教員が意識する。	
				⑯信頼できる先生がいる。	88.6						
				⑰地域の行事に積極的に参加している。	71.4						
			保護者	⑮お子さんは、学校へ行くのが楽しそうである。	81.0						
				⑯信頼できる先生がいる。	78.0						

＜重点目標⑤＞ 組織的な学校づくり										
評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果		自己評価	最終評価	分析	分析と今後の取組
業務改善の取組	(5)	アンケートの結果と、業務改善の具体的な項目を明らかにして評価する。	保護者	⑰学校は、多忙化改善に向けた取り組みを積極的に進めている。	90.2	95.1	a	A	・多忙化や業務改善に向けた取組が前回同様肯定的に評価されている。	・全職員が組織的に校務分掌やその他の業務にあたることで、業務の平準化を図る。
			教員	⑮業務改善に向けた積極的な取組を実践している。	100.0					
組織的な学校づくり	(5)	アンケートの結果と、各種たよりの発行回数、HPの更新頻度等を合わせて評価する。	教員	⑯各種たより等を通じて、情報発信している。	100.0	100.0	a		・学校からの情報発信、保護者との連絡、服務規律遵守、管理職への報連相は適切に評価されている。	・これまでの取り組みを継続していく。
				⑰生徒のことについて、保護者との連絡をとっている。	100.0					
				⑮服務規律を遵守している。	100.0					
				⑰管理職への報告・連絡・相談を行っている。	100.0					
※アンケート集計から自己評価までの流れ※										
① アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する。										

<<アンケート集計から自己評価までの流れ>>  
 ① アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する。  
     「そう思う」+「だいたいそう思う」が85％以上 ⇒**a**  
     「そう思う」+「だいたいそう思う」が75％以上 ⇒**b**  
     「そう思う」+「だいたいそう思う」が65％以上 ⇒**c**  
     「そう思う」+「だいたいそう思う」が65％未満 ⇒**d**  
 ② 評価の方法に記載してある方法で自己評価を行う。

- ・・・ 高くなった(+10p以上)
- ・・・ やや高くなった(+5～10p)
- ・・・ やや低くなった(－5～10p)
- ・・・ 低くなった(－10p以上)